如月：第 23 話「教職員によるミニ研修」

今年度、ミニ研修と称して，本校の課題について，児童の様子や個々の教職員の取組について情報を交流し合い，自己の実践力を高める取組を行ってまいりましたので，いくつか紹介します。

まず，礼節を重んじる坂町の小学校として，「箸の持ち方」に取り組みました。栄養教諭の指導のもと，全校朝会において，箸の使い方のマナーについて児童に指導したり，箸の使い方の上手な児童を紹介したりしました。さらに毎月 19 日を食育の日と定め，箸の持ち方について担任が指導しました。２月の研修では，具体的な指導内容について交流する中で，「箸の日を意識するように係の児童が掲示物を貼ったり、声をかけたりする」「箸の持ち方が上手な児童を紹介する」等の意見が出されました。

右の表１は，正しい箸の持ち方ができていると，各担任が判断した児童の割合の推移です。児童への指導や見取りが難しいのですが，**一度身につければ生涯役立つので，継続して指導していきたい**と思います。

表１　箸の持ち方がよかった人の割合

６月	９月	２月
53%	58%	66%

次に，相手を傷つける「チクチク言葉（ばか，あほ，うざい等）」についてです。夏休みの終りに，各学級の現状や取組について情報交換する中で，２学期から全校で取り組むこととして，次のようなことを決めました。

・特別な教科道徳の時間に，関連した授業を行う。
・いじめアンケートの中にチクチク言葉に関する項目を入れる。
・個人面談でどんな状況でどんな思いで遣ったのかを聞く。
・９月の学級懇談会で保護者にも状況を伝えて協力を得る。
・児童会活動を通して，全校児童が自らの様子をふりかえる。

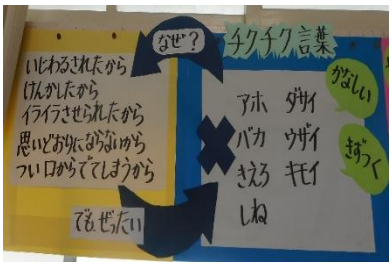

表２　チクチク言葉を使わなかった人の割合

11 月	２月
65%	74%

左の表２は，11 月と２月のチクチク言葉アンケートの結果です。これによると，低学年は「ばか」「あほ」という言葉を，高学年は「うざい」「消えろ」などを多く使っていることがわかりました。いずれも思い通りにならなかったときや，カッときたときに遣ってしまうので，**自分の心のコントロールやチクチク言葉に替わるコミュニケーションの図り方について，児童とともに考えていくような指導を行っているところです。**

さらに，来年度から本格的に実施されます外国語については，外国語のモジュール学習（15 分の短学習）において，ゼスチャーや板書を活用しながら視覚支援を行うことに気をつけた結果，約 85%を英語で指導することが出来るようになりました。さらに、教職員が英語を遣って授業を進めるために，児童の発言を評価する言葉（good, ok, excellent 等）を臨機応変に遣えるように研修を行いました。なぜなら、児童の発言に対する評価の言葉はあらかじめ準備ができず、即興性が求められるため難易度が高いからです。今後，**児童同士のやりとりやゲームを説明するときに，日本語をなるべく遣わず，英語で伝える能力を身に付ける必要がある**と思いました。

このように，児童の実態を分析したものをもち寄り，教職員同士で具体的な取組を交流しながら，他者のよさを認め合い，自己の実践に役立てる研修を行ってきました。1 回 30 分程度の研修ですが，**それぞれの教職員が学校の課題に対して、何をすべきかを具体的に理解し，全校で取り組むことができたことは大きな成果であった**ように思います。

校長　寺岡　成希